

Berlin Report

September 2021

CONTENTS

- * Project 1: U-Bahnhof Museumsinsel
- * Project 2: Dokumentationszentrum
Flucht, Vertreibung, Versöhnung

1. U-Bahnhof Museumsinsel

Project Overview

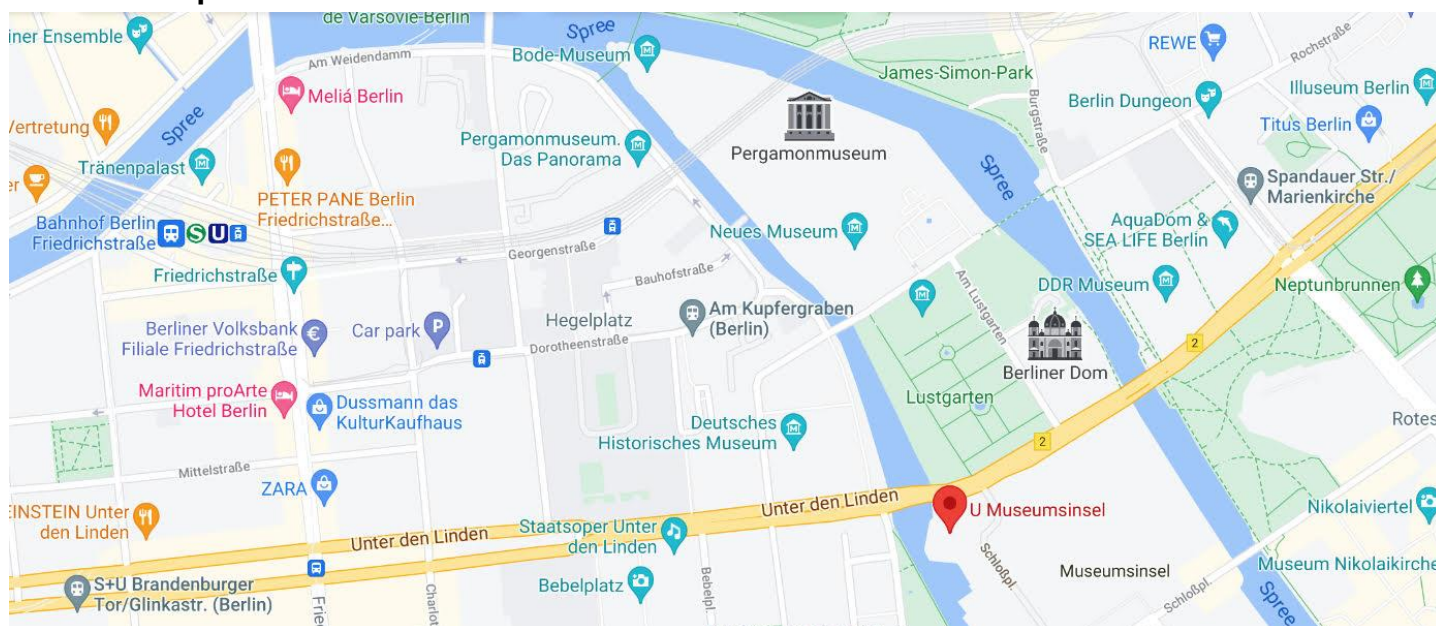
ユネスコの世界遺産にも指定されている「博物館島」の最寄り駅となる、地下鉄5番線の「博物館島」駅が今年7月についに完成した。19世紀にKarl Friedrich Schinkelが手がけた「魔笛」の舞台美術からインスピレーションを得たという美しい内装が大きな話題を呼び、駅自体が新たなベルリン名所となっている。

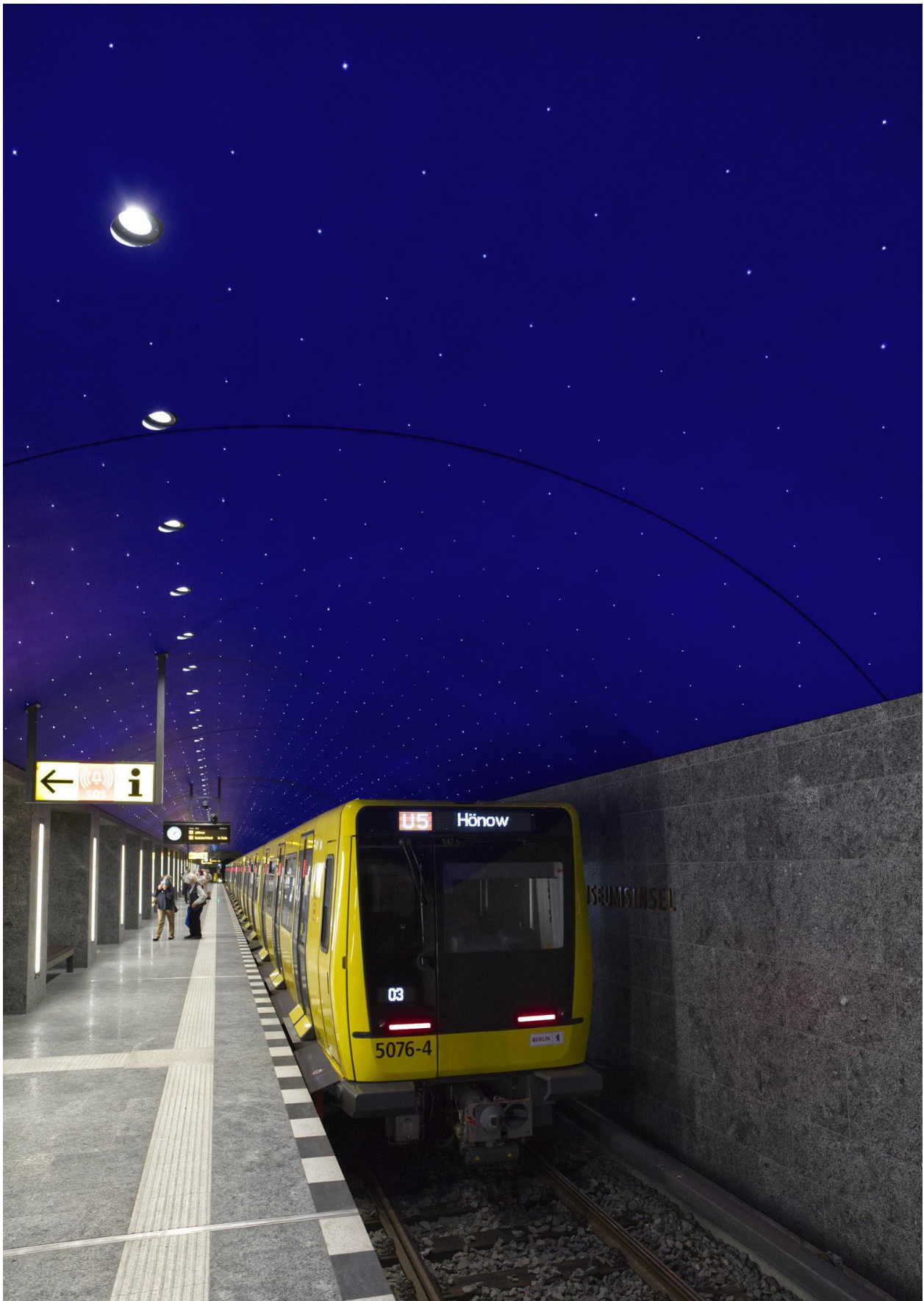
「博物館島」駅の建築を手がけた建築家 Max Dudler は、この駅の計画にあたって、博物館島や州立歌劇場など、ベルリンを代表する文化施設の最寄りということで「文化的な駅」を作ろうと考えたという。博物館島は、シュプレー川に浮かぶ中洲に集まる5つの博物館群。の中で最初に作られたのは旧博物館（Altes Museum）で、ベルリンの街並みを印象付ける数多くの建築を設計したKarl Friedrich Schinkelの作品である。Max Dudler は、博物館島駅の内装に、このKarl Friedrich Schinkelが手がけた伝説の舞台芸術を活かすというアイデアを思いついた。1815年にSchinkelがモーツァルトの歌劇「魔笛」の夜の女王のシーンのために提案した、深い青に塗られた丸いドームに星が輝く舞台芸術。それを、自然光が全く差し込まない地下20メートルの暗い地下鉄の駅を、6662個のLEDライトの星がきらめく深い青色の夜空へと再解釈した。ベルリン交通の地下鉄の車体である黄色にもよく映える。なかなか遠距離の旅行にも行けないいま、この駅は「島へ行って、星降る夜空を眺める」ことができるスポットとして、ベルリン子にも人気を呼んでいる。

Project Details

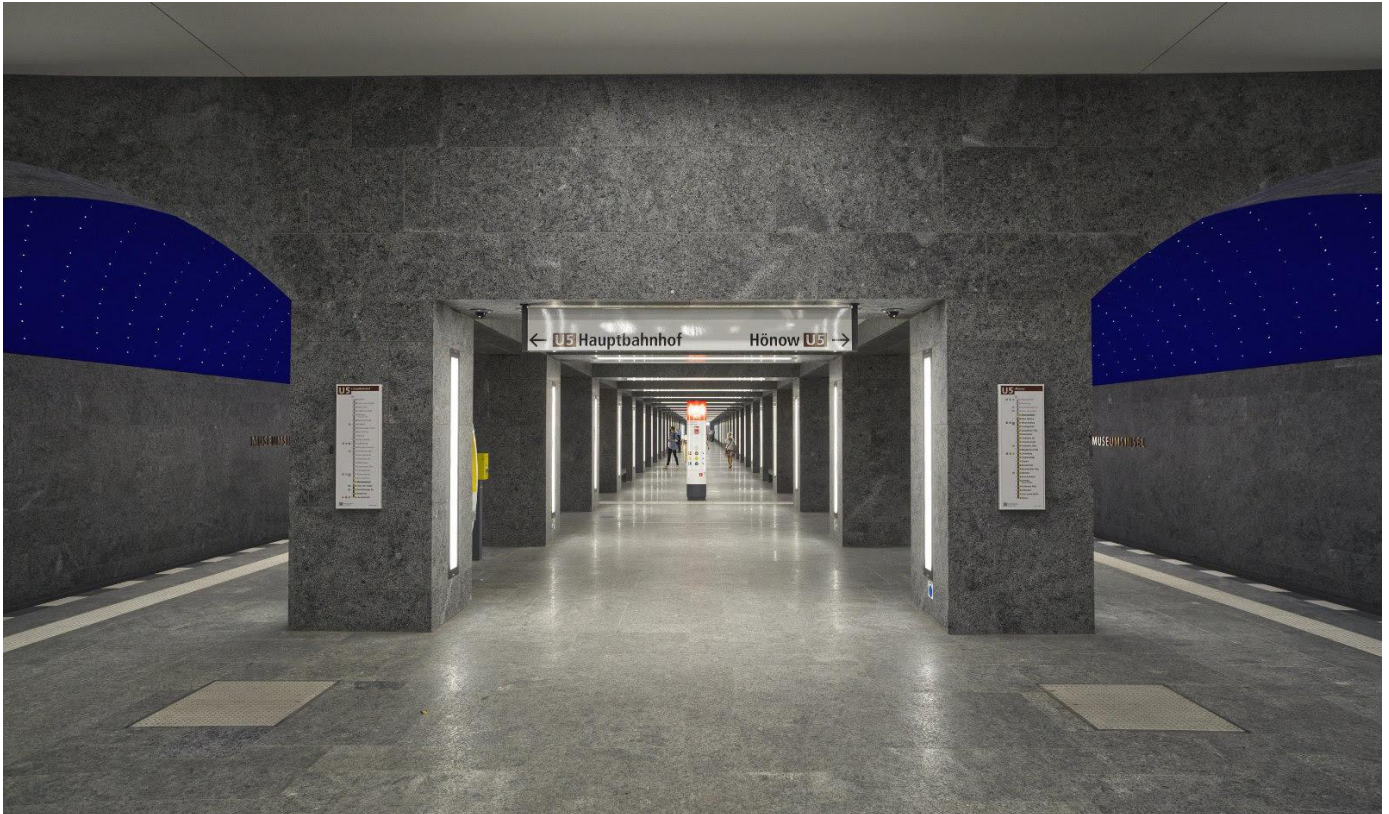
1. Type of Business: subway station
2. Open Date: 09/07/2021
3. Location: U Bahnhof Museumsinsel, 10178 Berlin
4. Size: 180 meter long
5. Architect: Max Dudler

Location Map





ベルリン交通の地下鉄の黄色い車体が青い夜空に映える。実はこの車体、東京メトロ銀座線のモデルとなっているのだそう。



上：御影石で統一された高級感あふれる駅。グリーングレーの石の色に深い青が映えて吸い込まれそう。下：駅を出ると、新しく再建されたベルリン宮殿(現在は、フンボルトフォーラムというミュージアムが入っている)とテレビ塔が目の前に。観光名所が集まる駅自体が観光名所に。



2. Dokumentationszentrum Flucht, Vertreibung, Versöhnung

Project Overview

「逃亡・追放・和解の資料センター」が、ついにオープンした。長い議論を経て完成したミュージアムは、祖国を離れなければいけなかった何百万人もの人々の運命がテーマだが、議論の理由は、第二次世界大戦後の「“ドイツ人“の追放」という難しいテーマをも扱っているためだ。内容はもちろん特に展示デザインやプレゼンテーションに非常に気を使ったと、チーフキュレーターの Jochen Krüger 氏は言う。

2階はヨーロッパと世界の強制逃亡のコーナー。「資料館」らしく、引き出しがずらりと並ぶ棚のようなイメージのパーテーションを用い、詳しく知りたい人は引き出しを開けて、詳細な情報を知ると言う作りになっている。奥の一角にある印象的な螺旋階段を上がると「“ドイツ人“の追放」をテーマにした展示となる。ここでは、追放の背景となったナショナリズムやナチズムを丁寧に説明することに力が入れられ、強いインパクトのビジュアル資料は、距離を置いて見られるように配慮されている。例えば破壊されたドイツの写真は、四方を壁で覆ったキューブの中にだけ展示され、プロパガンダ的なポスターや本などは、遮光ガラスのケースに入れられている。様々な形で、“ドイツ“から追放された普通の人々の物語が語られるコーナーでも、彼らの姿はシルエットになっていて、ボタンを押すと彼らの姿がイラストで現れる仕組みになっている。

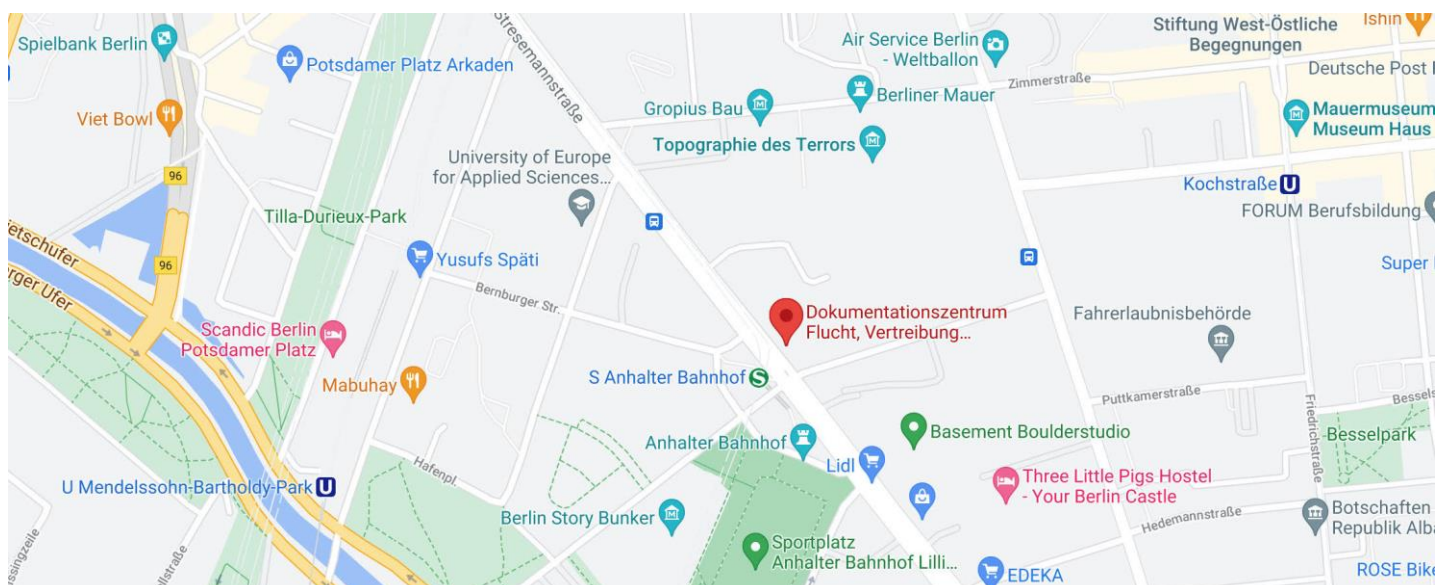
「特に学校の授業などでは、どんなに詳細に言葉で説明をしても結局頭には強いヴィジュアルしか残らなかったりします。一旦距離を置いてきちんとした歴史背景などを感じてもらえるように工夫しました」と Krüger 氏。

人々はなぜ逃げなければいけなかったのか。祖国を失うと言うことはどういうことか。新しいスタートを切るには。過去の憎しみが現在の和解につながるように…という強い意志が感じられる展示デザインである。

Project Details

1. Type of Business: Museum
2. Open Date: 21/06/2021
3. Location: Stresemannstrasse 90, 10963 Berlin
4. Size: 1700 m2
5. Architect: Marte.Marte Architekten Exhibition Design: Atelier Brückner

Location Map





上：Room of Silence 沈黙の部屋と名付けられた空間は、ケルンのKönigs Architektenが手がけた。訪れた人が立ち止まり様々な思いに浸るための空間。下：ヨーロッパと世界における、強制逃亡をテーマとしたコーナー。シリアやアフガニスタンなどから難民としてやってきた人たちの全ての情報を収めた携帯電話や、彼らの物語なども語られる。





打ちっぱなしのコンクリートで圧迫感のない空間づくりを心がけたと。ゆっくりと時計の針を戻し、歴史を振り返っていくイメージの螺旋階段



上：ボタンを押すと、壁のシルエットに個人の様子がイラストで映しだされ、様々な「故郷からの逃亡」の物語が開ける。下右：ドイツの小都市でよく見かける「故郷の小部屋」と名付けられた博物館には、当時の様子を伺い知れる日用品などが展示されていたが近年次々と閉館している。この資料館で引き取ったものを展示。下左：強いヴィジュアルイメージは、展示空間中にキューブの用な空間をさらに作って、目隠ししている。

